

平成 14 年 9 月 20 日

こども絵画コンクール ファイン・キッズ展開催！ ～こどもの色と形で、「ぼくのまち、わたしのまち」～

本日 20 日（金）から区内の美術専門学校「創形美術学校」で「第 2 回ファイン・キッズ展」が開催される。28 日（土）まで。主催：創形美術学校、後援：豊島区教育委員会。

このファイン・キッズ展は同校が美術デザイン教育を通して地域とのかかわりを深めようと昨年からはじめたもの。2 回目の今年は、区内の 6 つの小学校（池袋第三小学校、池袋第五小学校、椎名町小学校、長崎小学校、富士見台小学校、目白小学校）の児童約 350 人から作品が寄せられ、その全作品が同校の 1 階ギャラリー（ガレリア・プリント）から 9 階までの階段スペースを展示場として飾られている。また今回は、豊島区制施行 70 周年を記念してテーマも「ぼくのまち、わたしのまち」。350 人の子ども達が描いた様々な豊島のまちの姿が校内のあちこちにあふれている。

このファイン・キッズ展の特色は何よりも子ども達の自由な発想を大事にしていること。応募規定は画用紙四つ切大であれば水彩画、クレヨン、コラージュ、立体と何をつくってもよい。この展覧会の担当、田村さんが「ギャラリーに自分の作品が飾ってある喜びを知ってもらうために、出展作品全てを展示してるんです。」と話すその言葉どおり、展示場は写実的な作品からポップアートを思わせるようなコラージュ作品まで多彩な作品でぎっしり埋め尽くされている。絵のモチーフも良く知られたサンシャイン、芸術劇場から身近な神社や公園を描いたもの、さらに未来のまちの姿を描いたものなど様々。そして、そのどれもが子ども達の生の力強さ、わくわくするような発想に溢れている。

明日 21 日（土）には、展示会場に参加者をよんでのパーティー形式での授賞式が行われる。そのとき参加者全員に贈られる参加賞はなんと双眼鏡。展示作品は 1 階のギャラリースペースから始まり、階段の壁づたいに 9 階まで展示されている。それら展示作品を全て見終わった後、屋上に出てもらい、そこからこの双眼鏡で実際の「ぼくのまち、わたしのまち」を見てもらおうという企画。これらの企画は実は最初の段階から考えられていたものではなく、自由な子ども達の作品に触発されるように「創ることの楽しさやその熱が、スタッフの間に広がっていった結果。」と田村さんは話す。

来年は？という質問に田村さんは「今年は去年より参加人数が 6 倍に増えている、来年さらに増えたら東京芸術劇場でやりたい。いろいろ企画は考えてます。」と話してくれた。また藤山貴司同校校長も「総合学習の中で美術の出来ることがいろいろあると思う。ファイン・キッズ展が地域の文化交流の大きな樹になればいい。」と話す。

明日から見慣れたまちがまた違って見えるこの展覧会、ぜひ足を運んでもらいたい。

詳細：創形美術学校